

KSKR
No.50

発行2002年10月

パンジーだより

クリエイティブハウス

「パンジー」

かえる会より「職員や介護者はなあ！」

かえる会で、職員や介護者のことについて話し合った。グループホームの介護者に対しての意見がたくさん出た。最近、新しいグループホームができたりして新人が多い。

「新しい人は、（当事者との）関わり方を知らんのや」。

「よく調べて面接しなあかん」。

「新しい人が来て必死やねん。新しい人に一から教えるのは、簡単に言うけど、けっこうしんどいねん（怒）」。

「介護者がコロコロ変わると忙しい」などの意見が出た。

ある人が「介護者かって人間やから、ちょっとぐらい悪かってもいいと思う」と言うと、すかさず梅原さん「やっぱし、あかん。あかんと思うで。僕は絶対、介護者はしっかりしなあかんと思う。仕事やろ？ しっかりしてほしいと思う。しっかりしなあかん。それが仕事ちゃうの。ほんまに…」と熱弁。

「自分の気持ちを言葉で表現することが難しい人の気持ちを考えるときは、どうしたらいいんだろう？」という支援者からの問いに対して、「近くにいたほかの職員が見ていればいい」という意見が出たが、その後の話し合いの中で、「リーダーの仕事は、なかまの気持ちを考えて代わりに言うこと」だと再確認し、よりいっそう、たくましくなったみなさんでした。

（書記 山田）

スウェーデンに学ぶー当事者主体と自己決定ー



講演をするトミー（左）とアンデシュ（右）

2002年11月、スウェーデンの「グルンデン協会」で働いているトミーさんとアンデシュさんが大阪にやってきました。

グルンデン協会は、知的障害者向けの新聞やビデオなどの情報を発信したり、喫茶店を経営したり、さまざまな活動を通して障害者の地域生活を支援しています。トミーさんは当事者で、グルンデンで用務員のような仕事をしているそうです。彼女の写真や、10か月になる息子の写真を見せてくれました。

支援者のアンデシュさんはグルンデン協会の施設長でしたが、その仕事を当事者に引き継いでいるそうです。「来年の9月には私は仕事を失うでしょう」と言っていました。彼らは話を一部紹介します。（詳しく知りたい方は、冊子を発行するので、そちらをご覧ください）。

「グルンデンでは理事会ですべてを決定します。グルンデン協会の理事会は、今年から当事者だけになりました。それまで理事会の当事者は、仕事が多く忙しすぎるので、支援者が入ったほうがいいと考えていました。

しかし、当事者はグルンデン協会が何をしていくかについて、支援者たちが決めていると言いました。どういう議題について話をしなければいけないかをスタッフに課されているような、展望やこれから進んでいく道を彼らに見つけさせられているような状況だと感じ始めたのです。

そして、私たちが日本に来る直前に、理事会の4名の理事たちが当事者だけでミーティングを開き、支援者は会議に入れないと決めました。実際に私たちが日本に来る直前に開いたミーティングの参加者は、理事会の4名の当事者と、グルンデンメディアの当事者たちだけでした」。

グルンデン協会の当事者は確実に力をつけているのだと感じました。トミーは言います。「やさしい支援者は、当事者自身が望んでいることを表現してくれる人です。映画に行く、レストランに行くことを共有してくれます。悪い支援者は、当事者が何に興味を持つべきかを支援者自身が決めてしまう人です。私を障害者として捉え、気持ちを考えない人が悪い支援者です。悪い支援者は当事者の中に入ってきて、私たちを感情的に傷つけます。ハンディキャップを持っている人たちの自信をくじき、傷つけるのです。

もし、いい支援者に出会ったら、もっともっと楽しくなります。彼らは心をもって話してくれ、心をもって話を聞いてくれるからです。いい支援者がそばにいてくれると、僕自身がもっと強い人間になれるような気がします」。

現在、社会福祉法人創思苑では2人の当事者が評議員になっています。これから当事者主体をもっと進めていきたい。その方が楽しいことを確信しました。

就労支援のページ

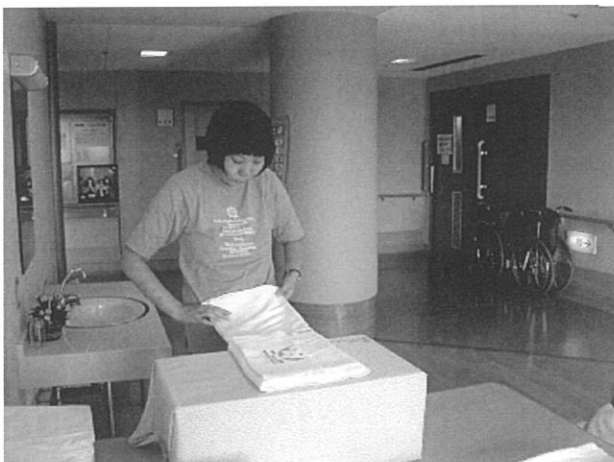
富田さん就職おめでとう！

2002年10月、富田さんが特別養護老人ホーム「アーバンケア島之内」に就職しました。仕事内容はおむつのセッティングで、月曜から金曜の午後1～5時までです。1ヶ月の実習を経て無事に就職できました。『アーバンケア島之内』は、昨年5月急逝した栗岡さんが就職していた所です。今回の富田さん受け入れに対しても快くお引き受け下さり、本当に感謝しています。

「9袋したよ」「昨日、また泣いてしもてん」などいろいろな話をしてくれます。また、「〇〇さん（支援者の名前）、見に来てや」と照れながら嬉しそうに言うのを見ると、毎日がんばって働いている実感が伝わってきます。

年末に忘年会がありました。支援者は遠慮した方が職場の人間関係も深まると考えていたのですが、私にもお声をかけていただいたこともあり、富田さんと一緒に参加しました。そこで何より嬉しかったのは、カラオケタイムで富田さんがみんなの前で「大きな古時計」を歌い、みなさんが暖かい眼差しと拍手で応えてくれたことでした。

これまでパンジーで行ってきた講演会活動、ピア・カウンセリング、ピープルファースト活動…このような取り組みの中から自信をつけ、チャレンジする勇気を持ち、就職という機会を得て大きく羽ばたいていく富田さん。次は誰の紹介をできるか、みなさん楽しみにして下さい。（豆子）



ピンクのユニフォームで仕事をする富田さん。給料で携帯電話を買ったそうです。



どらえもん会のページ

クリスマス会のこと

- ・ ビールがおいしかった。さいごのおどりがたのしかった。
「ぎせいしゃは だれだ ゲーム」のえんぎが じょうずに できた。
(あおやま)
- ・ おもしろかった。ぎせいしゃは だれだゲーム で あおじる あたったけど、
プレゼント (さんかしょう) もらえて よかった。
(こまつばら)
- ・ ハマチの おすし おいしかった。
うた、うたったり、きいたり が たのしかった。
(にしだ)
- ・ クリスマス・イブとか、しっている きょくも あった。田辺さんの サックスが いちばん よかった。
また らいねんも やりたい。
(おかもと)
- ・ たのしかった。サックス みんなに きいてもらって うれしかった。おりょうりは おいしかった。
(たなべ)
- ・ たのしかったあー。おりょうりは おいしかった。しかいをしたのは きんちょうしたけど たのしかった。
(かわの)
- ・ プレゼント おおきなのを もらって よかった。
クリスマスかいの プログラムを つくった。
(ながた)
- ・ クリスマスかい、たのしかった。
(くぼ)
- ・ ジュースが おいしかった。うたも できて よかった。
(みぞばた)
- ・ ケーキ おいしかった。
プレゼントは タオルを もらいました。おおきいたオル バスタオル。
フライドチキンはおいしかった。えびずしを たべました。
(やまもと ゆうすけ)

シリーズ 私の好きな芸能人①

肌勢俊一

さいじょうひでき(西城秀樹)

西城秀樹とは歌手で、若いし、背が高く、どんな歌でも歌う人である。

ぼくは好きなのは、歌が、とても大きな声が出て、ヤングマンとかそのほかの歌もうたうし、髪の毛が昔は長かった。今はちょっと年いったけどがんばってやっています。

代表曲：ヤングマン、傷だらけのローラ、走れ正直者、ターンAターン など



おおすぎれん(大杉漣)

この人は、映画やテレビのコマーシャルやドラマにも出ている人で、その顔つきが売り物である。人気があってそのほかみそ汁のコマーシャルにも出ている人で、そのほかいろんなテレビにも出ているタレントである。

代表作：真夏のメリークリスマス、キッズリターン など



きのみなな(木の実ナナ)

木の実ナナとは目の大きい女の人である。混浴露天風呂というドラマにでている人で、もう一人の男、火野正平(※1)という人と出ています。この人もちょっと年いってるけど、刑事役でも出ている人で、コンビを組んで二人で、温泉に入っているけれど、事件のヒントをあたえたりしている。二人はとても仲がよいのである。

代表作：たけしくんハイ！ など



※1 火野正平

三枚のお札

中新井 滯子



私の出勤日である月曜日は行事の代休になったり、祝日だったり、休みに
なることが多い。特に今年の秋はそんな日が続いた。

一ヶ月もごぶさたをすると、その間にいろいろなことがおきている。

なんてたってKさん。就労に向けての職場実習でがんばっているという。自転車通勤だそうだが、支援者が追いつけないなんていかにも彼らしい。私がパンジーに来て最初に相談を受けたのが彼で、なかなかじっと座っていられなかったことを思い出しながら、彼の仕事ぶりを想像する。とってもうれしい。

初めての発作のおきたTさん。主治医は専門外ということで療育センターは18歳以上ということで、市民病院はじっとしていないということで、診察や検査を断られたとの事。結局奈良まで行った話を聞くと、20数年前とあまり変わらない状況に腹が立ってくる。

1ヶ月という時間は、新しいメンバーのMさんにも大きな変化をもたらした。10月に初めて会ったときはまだパンジーになじまず、1人で帰ろうと脱出を試みては、それを阻止するスタッフを蹴ったり、頭つきをしたり、暴言をはいたりして抵抗していた。彼の見かけの温和しさやゆっくりとした動きと抵抗の際の心的エネルギーのギャップに皆とまどっていたのである。

そんなMさんも、すっかり落ち着いて作業にも加わっている。彼にとっては大変な一ヶ月だったろうなと思いながら一緒に仕事をしていると、ポツリポツリと話が始まった。ゆったりとしたテンポで一音一音に時間をかけながら語る彼の話をまとめると次のようになる。

「お寺のお尚さんから3枚のお札をもらった。オニババが追っかけてくるので、1つ目のお札を投げるとドカーンと大きな山ができた。2つ目のお札はザブーンと大きな川が流れた。オニババはそれでも追っかけてくる。3つ目のお札を投げるとオニババは小さくなった」

おそらく、Mさんが以前に聞いたことのある昔話なのだろう。私が相づちをうったり、復唱したりしながら聞いていくと、彼は話をいきつ戻りつしながら小1時間かけて話してくれた。「山」や「川」や「オニババ」は何回もくりかえし出てくるのに、お札を投げている主人公は最後まで登場しない。「お尚さんからお札をもらったのは誰？」と聞くと、「小僧さん」が出てきた。3枚目のお札についても、私からの質問でやっと思い出したようだった。

現実生活ではなかなかうまく適応できない彼だが、お話の世界では力強く動いている。まだはっきりと見えていない主人公が、いつか大きく育って、自らオニババ（現実の困難）と対決する日がきっとやってくることだろう。昔話（彼の持参する本に『やまたのおろち』と『こぶとりじいさん』があった）の中でそれを確かめていきたい。それにしても、オニババとの対決は山や川で防ぐのではなく、オニババが小さくなる（自分が大きくなる）ことであるという結末は実に象徴的であった。



パン屋の報告

寒い日が続きますが、みなさま、風邪など引いてないでしょうか？パンジーの当事者にも、風邪でお休みする人がチラホラ…。今年は風邪が大流行みたいです。

さて、そんな中、パン屋はいそがしい毎日です。でもそんないそがしいパン屋も、無事に一年を終えることができ、新しい年を迎えることができました。ありがとうございました。今年も地域に根付いたパン屋を目指して、どんどん配達、販売に行きたいと思っていますので、注文をよろしくお願いします。でも少しはゆったりペースを楽しもうかな？

ところで、最近、毎日ではないのですが、パンジーの前に看板を置いて、販売しています。実際に買いに来てくれる人はショップと比べものにならないくらい少ないですが（ライバル店とは思われなくていいのですが）、このようなことで、地域にパンジーを知ってもらうことにつながればうれしいなと思っています。販売や配達で出会う、特に小さな子どもたちとのふれあいはとてもお互いに大切なように思っていて、同じようなことがパンジーの中でも感じられたらいいな。販売や配達でこちらから出ていくことがとても大切なように、パンジーに地域の人が遊びに来てくれることも今年は大切にしていきたいと思っています。（ゆきめ）

～グループホーム「春宮」新しくスタートしました・・・！～

この10月より新しく7つ目のグループホーム「春宮」がスタートしました。入居して早2ヶ月が経ちましたが、当初はそれぞれ新しい環境にわくわく、そわそわ、ちょっぴり落ち着かない日もありましたが、現在は徐々に慣れ始めてきています。

グループホーム「青空」から移ってきたNさん、グループホームの移動により生じた生活保護申請のやり直しというアクシデントにも動じず、新しく入った介護者に色々と介護の仕方を伝えたりと頼もしい一面を見せてくれています。同じく「青空」から新しく移ったUさんは、現在の職場が近くになり、よりゆったりした生活ができています。目下、散髪屋、酒屋等、お気に入りの行きつけ予定のお店を探してグループホーム周辺を探索中・・・とのことです。

入居者それぞれが、この「春宮」の地に溶け込む日も、もうそこまで来ています。（やまもと）

緊急提言！入所施設はホントにいるの？ パート2



11月23日、宮城県福祉事業団の船形コロニーの理事長が、「施設を解体する」と発表した。日本初の入所施設解体宣言。その後も「新障害者プランには入所施設の数値目標を盛り込まない」という政府の見解が新聞に載り、なんとか増え続ける入所施設に歯止めがきくことになるのかな、と思う。しかしまだまだ油断できない。厚生労働省は「入所施設を作らないとは言っていない」などと往生際の悪いコメントをしている。11月23日はピープルファースト大会in熊本が開催された日でもあり、その全体会で講演をした厚生労働省の専門官は、ピープルファースト東京の尾登さんの「入所施設でひどいめにあった。あんなものはなくしてほしい！」という発言に「それは私たち(厚生労働省)が決めることではない。施設の経営者や皆さんがもっと話し合ってください」と、はぐらかした。9月のピープルファーストと厚生労働省との折衝でも障害福祉課長は「親は作れといっている。本当にまずいのは(施設の存在ではなく)不透明なところ」、「立派な施設に見学に行ってみれば？そんな良い施設でもないのか」と発言した。ピープルファーストは「入所施設そのものが人権侵害。改善でなく解体を」と訴えているのに・・・。

いくら立派な建物でも集団生活は集団生活。規則があり、閉鎖的なため虐待や人権侵害を招く環境がある。入所施設には専門性があるから安心と思われているが、人手不足を理由に、支援者にとって本当に大切な、当事者の話をちゃんと聴くことや希望を実現する支援をすることなく、職員はいかに効率よく入所者に関わるか、いかにしたいことをあきらめさせるかに、力を使わなければならない。



「良い施設」ならいいじゃないかと言うが、支援者の数が充分で、当事者の意向に添った支援をしていくのなら、何十人もの人を一カ所に集めて生活させるような箱モノは必要ない。それでもあなたは入所施設はホントにいると思いますか？

東大阪市長への手紙

「東大阪でこんなことがあるなんて、信じられない」

はっしんきち「ザ☆ハート」

私たち、ザ☆ハートは、それまでパンジーに通っていた人や、在宅の人が集まって、今年の4月に、荒本に事務所を作りました。主に、ピープルファーストの運動をしています。詳しいことは、ザ☆ハートのパンフレットと福祉労働の文章を参考にしてください。

さて、最近、大変な話を聞きました。11月14日に、春宮の公園の近くの空き地で、車から降りようとする知的障害者に、職員らしい女性が2回びんたをして、ヘッドロックのような格好で車に乗せたそうです。再び、降りようとするのを今度は押したおし、引きずって車に乗せて、ドアの鍵を閉めその人はタバコを吸っていたようです。

私たちはその話を聞いたとき、本当に腹が立ちました。「東大阪でこんなことがあるなんて、信じられない」「ひどい話だ」「自分がそんな目にあったら、嫌だ。逃げたくなる」「かわいそう」「暴力をふるわれても、怖いかえさせない」などと思いました。知的障害者への人権侵害や虐待は、よく新聞にのります。しかし、こんな事はあってはいけないことです。

どこの作業所や施設かということは、わかっていません。そこで、ザ☆ハートでは、この事件について話し合い、東大阪市すべての施設や作業所の代表に、手紙を書くことにしました。こんな事を、二度と繰り返さないでください。そして、知的障害者の人権を尊重するよう、職員を指導してください

私たちは、障害者である前に一人の人間です。一人の人間としてつきあってください。たとえ間違ったことをしても、大きな声で叱ったり、暴力をふるわないでください。場所を考えて、ゆっくり話してくれたら私たちにもわかります。

また、私たちの仲間には、これまでの生活の中で、虐待を受けても、自分が悪いと思ったり、相談する人がいない人もたくさんいます。

ザ☆ハートは、当事者の人たちの人権を守る場所にしていきたいと思っています。そして、東大阪を誰もが住みやすい町にしていきたいと思っています。ご意見をお聞かせ下さい。

(この手紙は、東大阪市障害福祉部長・各施設長・各作業所代表にも送りました)

書き損じハガキ、(未使用)切手を送ってください!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

〈後援会費を振り込んでいただいた方〉(敬称を略させていただきます)

〈カンパ・寄付をいただいた方〉

〈書き損じハガキ・未使用切手・未使用テレホンカードをお送りいただいた方〉

VIDEO 当事者主体と 自己決定をさぐる

グルンデン協会の人たちの活動と暮らしを訪ねて



企画・制作:スウェーデンスタディツアー実行委員会
販売:はっしんきち「ザ☆ハート」
東大阪市荒本2049-4 23-101
TEL 06-6789-6637 FAX 06-6789-6649
上映権付価格:12,000円 個人価格:3,000円
2002年制作 カラー120分

2001年8月10日、知的障害をもつ人たち4名と、支援者13名がスウェーデンに旅発った。出迎えてくれたのは、スウェーデンのグルンデン協会の当事者で理事長をしているハンスと理事のアンナ、そして支援者のアンデシュ。案内人は河東田博さん(立教大学教員)

スウェーデンへの旅は、日本の知的障害者が自分らしく生きていくために必要なことは何か、必要な支援は何か、社会をどう変えていけるのかを示唆していた。



パンジーでは、
後援会員を募集
しています

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号		00950-1-300551	
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市東中浜2-10-13
緑橋グリーンハイツ1階